

*** 会員寄稿 ***

天王山会館(鮎田昌貴記念館)竣工披露・医科器械史研究賞及びグッドデザイン賞受賞祝賀会開催

鮎田昌貴 (松阪地区)

2016年 1月24日に松阪フレックスホテルにて公益社団法人松阪地区医師会 笹尾幸雄先生、同増山晴幸先生を发起人として天王山会館(鮎田昌貴記念館)竣工披露、医科器械史研究賞及び「鮎田式胃壁固定具II」2015年度グッドデザイン賞受賞

祝賀会ならびに日本医科器械資料保存協会への「鮎田式胃壁固定具・鮎田式胃壁固定具II」の贈呈式を開催していただきましたのでご報告申し上げます。



ふなだまさき 鮎田昌貴 天王山会館(鮎田昌貴記念館)館長

資格 医学博士 日本消化器内視鏡学会専門医 日本医師会認定健康スポーツ医 日本医師会認定産業医

profile

略歴 平成28年(2016年)1月24日現在

- 昭和29年(1954年) 1月29日 三重県北牟婁郡紀伊長島町島原 3525 番地(現 北牟婁郡紀北町紀伊長島区島原 3525 番地)にて出生
昭和55年(1980年) 3月 三重大学医学部卒業後、三重大学第二外科へ入局
小児外科、成人外科を大学内研修
昭和57年(1982年) 7月 三重県上野市民病院外科勤務
救急医療、脳外科、一般外科を研修
昭和58年(1983年) 4月 三重大学医学部大学院医学研究科へ入学
胸部外科を研修、新生児・乳幼児の手術、乳癌・甲状腺癌の手術、食道・胃・大腸などの消化器癌の手術を数多く手がける
昭和62年(1987年) 3月 大学院を卒業し、医学博士となる
甲第 211 号 学位論文「ラットを用いた人工肛門造設に伴う腸管の炎症性変化に関する研究」
昭和62年(1987年) 4月 三重大学医学部付属病院第二外科助手
昭和62年(1987年) 7月 和歌山県新宮市立市民病院外科医長
~63年(1988年) 12月 三重大学第二外科非常勤講師
平成 1年(1989年) 1月 三重県四日市市の小山田記念温泉病院外科部長
~ 3年(1991年) 11月 80 歳・90 歳の高齢者手術、温泉療法、整形外科、リハビリテーション治療を修得
独自の手術手技「鮎田式経皮的胃壁固定法」の研究開発、学会発表などを行い、「鮎田式胃壁固定具I」の特許を出願 出願日：平成 2年(1990年)12月 29日
平成 3年(1991年) 12月 三重県松阪市上川町に「ふなだ外科内科クリニック」(外科・内科・消化器内科・肛門外科・整形外科・リハビリテーション科)を開業
平成 5年(1993年) 5月 「鮎田式胃壁固定具」を株式会社クリエートメディック社より製品化
平成 6年(1994年) 6月 「鮎田式胃壁固定具」特許取得(特許証 第 416573 号)
平成 8年(1996年) 4月 HEQ 研究会 三重県幹事(Home health care, Endoscopic therapy, Quality of life)
平成18年(2006年) 5月 「鮎田式胃壁固定具II」の特許①を出願
平成20年(2008年) 3月 「鮎田式胃壁固定具II」の特許②③を出願
平成20年(2008年) 9月 松阪地区在宅栄養研究会 設立、代表世話人
平成22年(2010年) 4月 PEG・在宅医療研究会 常任幹事
平成22年(2010年) 5月 「鮎田式胃壁固定具II」を学会発表
平成22年(2010年) 8月 「鮎田式胃壁固定具II」を株式会社クリエートメディック社より製品化
平成23年(2011年) 9月 「鮎田式胃壁固定具II」特許②③取得(②特許証 第 4814273 号 ③特許証 第 4814274 号)
平成24年(2012年) 6月 「鮎田式胃壁固定具II」特許①取得(①特許証 第 5010178 号)
平成26年(2014年) 6月 財団法人日本医科器械資料保存協会の平成 25 年度 第 22 回「医科器械史研究賞」を「鮎田式胃壁固定具の開発—胃瘻の歴史から見た鮎田式胃壁固定具の意義—に関する研究報告」という論文で受賞し、第 89 回日本医療機器学会大会で表彰を受ける
平成27年(2015年) 9月 財団法人日本デザイン振興会より 2015 年度グッドデザイン賞を受賞
平成28年(2016年) 1月 天王山会館(鮎田昌貴記念館)を竣工披露し、医科器械史研究賞・グッドデザイン賞受賞祝賀会並びにその席上で「鮎田式胃壁固定具・鮎田式胃壁固定具II」が財団法人日本医科器械資料保存協会の医科器械歴史資料館に殿堂入りし展示されるため協会への贈呈式を挙げる

鮎田式胃壁固定具Ⅱは昨年10月1日、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する2015年度グッドデザイン賞を受賞致しました（写真1）。審査にて『従来から胃瘻造設術の際に使用する医療機器として評価が高かった鮎田式胃壁固定具を改良し、片手操作により結紮糸を胃内に送り込む際に手元に視線を取られる必要がなくなった。このため内視鏡画像を見ながら動作を行えることが画期的である。』と評価をしていただき受賞することができました。もちろんグッドデザイン賞を狙ってデザインしたものではなく、医療の現場で利便性の高い機能を追求した結果がこのデザインになっ

た訳であり、審査員からも「機能的であり、外見や使い勝手もシンプルで無駄がない優れたデザインに仕上がっている。」とのお言葉をいただきました（写真2）。2015年10月30日には東京ミッドタウンで開催された、「グッドデザインエキシビジョン2015（G展）」で、受賞デザインとして一流デザイナーの完成度の高い他のデザイン作品と並び展示され、同年11月4日には授賞式が行われました。グッドデザイン賞は単にデザインセンスだけが問われるものでなく、各産業分野において機能性や社会的意義までもが評価していただけるものだと理解できました。当然、医療分野もそのカテゴリーとして明示されております。医師が医療現場で自ら使用する医療機器のデザインを行うことは、決してあたりまえのことではありませんが、極めて意義深いことだと考えております。



写真1 グッドデザイン賞賞状

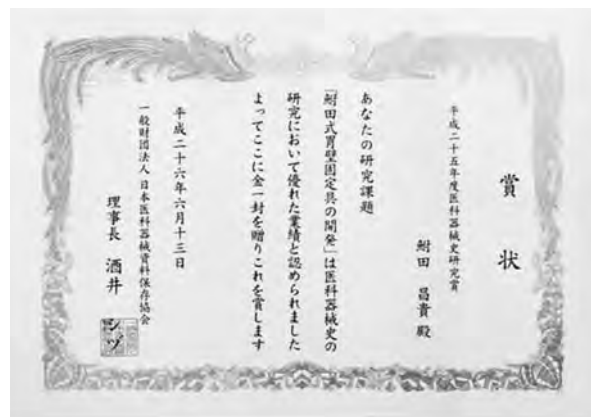


写真3 医科器械史研究賞賞状



写真2 グッドデザイン賞審査会場展示風景



写真4 医科器械史研究賞授賞式

また、すでに三重医報2014年7月号(第644号)でご報告の通り一昨年、「鮎田式胃壁固定具の開発—胃瘻の歴史から見た鮎田式胃壁固定具の意義—」という研究論文(文献1)にて、公益社団法人三重県医師会会長 青木重孝先生のご推薦をいただき一般財団法人日本医科器械資料保存協会が実施する「平成25年度第22回医科器械史研究賞」を受賞しました(写真3)。また2014年6月13日には新潟市で開催されました第89回日本医療機器学会にて表彰をいただいております(写真4)。

日本医科器械資料保存協会は歴史的意義を有する医科器械を収集し、これを医科器械の開発・改良の研究資料として保存し、医科器械に関する科学技術の進歩に貢献することを目的として、日本医療機器学会が昭和59年に設立された財団で、同協会の目的を達成するための事業のひとつとして医科器械史の研究に優れた業績をあげた研究者に「医科器械史研究賞」の贈呈を平成4年からスタートしたもので、今回、受賞した研究論文が同協会の目的に合致した優れた業績として認められたものです。



写真5 左「鮎田式胃壁固定具」、右「鮎田式胃壁固定具II」永久展示贈呈品

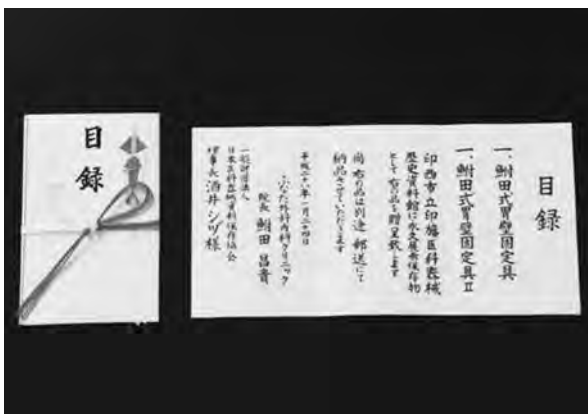


写真6 鮎田式胃壁固定具・鮎田式胃壁固定具II 贈呈目録

なお、今回の祝賀会では日本医科器械資料保存協会が管理運営する歴史的に貴重な医療器械を集め一般公開している印西市立印旛医科器械歴史資料館へ鮎田式胃壁固定具及び鮎田式胃壁固定具II(文献2)が永久展示されることを受け、その展示物(写真5)を同協会の理事長・順天堂大学名誉教授 酒井シヅ先生に寄贈させていただきました(写真6)。贈呈式には一般財団法人日本医科器械資料保存協会 監事・泉工医科工業株式会社 顧問伊澤 忠様にお越しいただきました(写真7)。

祝賀会では鮎田式胃壁固定具開発秘話(文献3、4)をミニ対談としてお話をさせていただく機会をいただきました。

祝賀会にはたくさんの来賓が駆けつけていただきました。三重県医師会会長 青木重孝先生には、ご祝辞のあと乾杯のご発声をいただきました(写真8)。また、日本の胃瘻の歴史と共に歩まれてきた、日本のPEGの第一人者である大船中央病院特別顧問 PEG・在宅医療研究会会長 上野文昭先生にもお越しいただき祝辞をいただきました(写真9)。上野文昭先生が故門田俊夫先生(三重



写真7 日本医科器械資料保存協会への贈呈式



写真8 青木重孝三重県医師会長 挨拶

大学第二外科出身)と共に開発された国産初の胃瘻造設キットと鮎田式胃壁固定具は、1998年11月にキット化され、これまで二人三脚でイントロデューサー法を推進してまいりました。松阪地区医師会からは野呂純一会長をはじめとした諸先生方、三重大学学長 駒田美弘先生をはじめ、大学の諸先輩、同期や後輩の方々にお越しいただきました。また、三重県知事 鈴木英敬様も伊勢志摩サミットの準備でご多忙の中、祝賀会に駆けつけていただき過分なご祝辞をいただきました。松阪市長 竹上真人様、衆議院議員 田村憲久様にも激務の中でお時間を作っていただき心のこもったご祝辞をいただきました(写真10)。

恩師である三重大学第二外科教授 故鈴木宏志先生をお招きできなかったのが残念でしかたありませんが、奥様である節子様にご出席いただきました。



写真9 上野文昭PEG・在宅医療研究会会長 挨拶



写真10 壇上での来賓との握手
(左から駒田三重大学学長・田村衆議院議員・筆者・鈴木三重県知事・竹上松阪市長)

また、天王山会館(鮎田昌貴記念館)は松阪市豊原町に、主にこれまでの研究成果を収集・保存することを目的に建設したもので、今後は海外からの来賓をもてなせる場所として、また一般公開も視野に胃壁固定具開発の歩みや論文、試作品現品などの展示場を併設した木造2階建て延べ330平方メートルの建物で(写真11)(写真12)(写真13)、竣工披露の翌日、朝日新聞に掲載されました(写真14)。今後はここを情報発信基地としてさらなる研究開発を進める所存です。

記念館を竣工致しましたが、ここを終着点にするつもりはございません。まだまだ皆さま方にはご迷惑をお掛けし、またお力をお借りするかもしれませんが、天王山会館を本拠地として挑戦を続ける人生でありたいと思います。最後になりましたがこの場をお借りしてご参加の皆さま、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

(なお、同様の記事を三医会会報にも掲載させていただきます。)



写真11 天王山会館(鮎田昌貴記念館)表札



写真12 天王山会館



写真13 鮎田昌貴記念館展示室



写真14 朝日新聞掲載記事

- 文献 1 鮎田昌貴：鮎田式胃壁固定具の開発—胃瘻の歴史から見た鮎田式胃壁固定具の意義—に関する研究報告. 医療機器学 2014; 84(4):481-491
- 文献 2 鮎田昌貴：鮎田式胃壁固定具 (Funada-style Loop Gastropepy Device) の誕生から改良型ワンハンドタイプ鮎田式胃壁固定具Ⅱの開発まで. 在宅医療と内視鏡治療 2013;17(1):87-98
- 文献 3 鮎田昌貴：トピックス 鮎田式胃壁固定具開発秘話. クリニシアン 2009;56(7):790-796
- 文献 4 鮎田昌貴監修：鮎田式胃壁固定具徹底解説. 埼玉；医科器械出版社 月刊医科器械号外特集号2008